

2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>① 貧困農家の有機農業の支援-1 事業名称：有機農業推進の基盤整備事業フォローアップ 活動期間：2019年4月～2020年3月まで 現地協力：GIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：一般寄付 活動地域：タミルナドゥ州トッパンパティ地区デバトール、コタヤム村 活動背景：有機農業の知識・技術普及と有機農産物市場開拓、 農業生産性向上と農業労働者の所得向上 計画進捗：定期的なモニタリングとアドバイス 期待成果：有機農産物の定期販売の実現。有機農産物生産者の 要望を踏まえて販売所を設置予定。</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告> 活動成果：農家のニーズに合った販売方法が選択肢となり今後の継続的な 収入に結び付いていく。主な活動としては有機農産物の販売をどの ようおこなっていくかについて提言を担当スタッフにおこなっ ていった。 活動課題：農家の中心メンバーとも情報を共有して他地域の有機農産物 マーケティング方法を取り入れていく。</p>	<p><2019年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2020年4月～2021年3月まで</p> <p>* 事業のフォローアップは2020年3月で終了とし、同地域での活動 期間中は現地協力団体とも連絡を取り提言や協力を継続していく。</p>

◆受益者の声：

有機農産物の認知度が上がってきているようで少し高い値段でも売れるようになったよ。村でも販売所を設置して定期的に野菜を届けていきたいとおもっている。また、いろいろな種類の野菜が揃えられるよう農家同士で話し合って作付けを変えて生産していく計画だ。

2019 年度 海外協力事業 計画	2019 年度 海外協力事業 報告	2020 年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2019 年度 米山・望月(インターン)</p> <p>②貧困農家の有機農業の支援-2 事業名称：有機農業に関する基盤整備及び農村開発事業 活動期間：2018 年 11 月～2019 年 10 月（3 年間事業の 2 年目） 現地協力：REYDS TRUST (Rural Education Youth Development Service) 資金財源：外務省 NGO 連携無償資金協力 17,147,910 円 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区、マンマラスパティ村、S・バラス村、2 か村、受益者 150 名 活動背景：降雨量の不足により農業期間が短いため生産物が少ない、土壌が疲弊しているため収穫が少ない、これによる貧困状態に陥っている。</p> <p>活動計画：ミミズ堆肥場の新規設置により堆肥の生産量の増加、育苗農地の設置、シードバンク開設により野菜品種の増加と保存ならびに生産量の拡大、有機農産物の販路確保による収入向上、有機認証取得による認知度の向上</p> <p>期待成果：農民の有機農法への理解が深まり化学肥料からの移行を促進することが可能となる。多品種の農産物生産が可能となる。マーケットの開拓のために輸送手段としてトラックを導入して輸送量を拡大していく。</p> <p>活動課題：有機農産物への理解促進を図るためのプログラム開発、有機農産物販路開拓と安定経営の施策。</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告></p> <p>計画進捗：有機肥料ミミズ肥料生産場を増設、2 年次は 28 トンを生産、各農家に配布。治水工事は計画通り完成。有機認証申請・取得、育苗場設置、シードバンク設置、有機農産物販売所の選定。有機農産物販売状況視察、有機農家の視察</p> <p>活動成果：ミミズ堆肥の施肥によりトマト栽培農家は前年度に比べて生産高が 2 割増加した。有機肥料生産により 150 農家で化学肥料購入経費が 7 割削減された。有機農産物販売市場が 6 か所選定された。その他販売方法として市内での路上販売、宅配方式が検討された。</p> <p>活動課題：有機農産物認証が取得できたので大いにアピールし、販路拡大につながる方策が必要になる。</p>	<p><2019 年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2019 年 12 月～2020 年 11 月（12 月より 3 年間事業の 3 年目）</p> <p>資金財源：外務省 NGO 連携無償資金協力 約 600 万円</p> <p>活動計画：有機農産物定期販売が可能となる。市内での有機農産物販売店の開設。有機農産物の認知度が上がり消費者が増加していく。</p> <p>期待成果：有機農家の生産が確実におこなわれ市場への集荷量が増えていく。有機農産物、加工品の消費者が増加することによって生産農家の収入向上につながっていく。</p> <p>活動課題：事業終了後も継続的に農産物の出荷、販売が安定しておこなわれるように農家組合の協力のもとに引継ぎをおこなっていく。</p>

◆受益者の声：有機農産物が生産できる環境が整い収入につながっていくことで農業をおこなっていくことの励みとなっている。

2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2019年度米山</p> <p>③SHGによる教育ローン・ヤギローン運営支援 事業名称：教育ローン支援事業 活動期間：2019年4月～2020年3月 [2012年より開始された事業] 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：ウタヤム連合ならびにスリ・ムタランマン SHG による自主財源ならびに個人会員の指定寄付 50 万円 活動地域：タミルナドゥ州、ニラコタイ地区 10 の SHG ウタヤム連合、スリ・ムタランマン SHG、 活動背景：高等教育ローン制度導入による経済的支援 計画進捗：定期的なモニタリングとアドバイス 期待成果：継続的な安定運営</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告> 計画進捗：ウタヤム連合、スリ・ムタランマン SHG, アンナイ・ムタランマン SHG とともに適正な運営管理がなされている。</p> <p>活動成果：返済率は約 100%。連合のグループでは 11 の SHG メンバー、スリ・ムタランマンのグループでは 12 名が利用。アンナイ・ムタランマン SHG 12 名が 23 万ルピーを利用。用途はメンバー子弟の入学金、授業料補填。ウタヤム連合では教育ローンやその他使い道が拘束されない少額 (5,000 ルピー前後) なローン開始されている。現在数名が利用。ウタヤム連合への資金提供は 2016 年度で終了。スリ・ムタランマン SHG も安定した教育ローン運営が可能となったため 2018 年度で資金提供は終了。</p> <p>活動課題：教育ローン受給者のその後、その後の成果の報告、モニタリングの実施。</p>	<p><2019年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2020年4月～2021年3月まで</p> <p>資金財源：LIFE からの資金提供なし</p> <p>活動地域：マイケルパラヤム地区にあるアンナイ・ムタランマン SHG を新たに追加</p> <p>活動計画：3地区の SHG による教育ローン運営が継続的にこなわれるためにマネージメント面でのアドバイスをおこなっていく。運営経費は返済金と銀行預け利子で賄われる。</p>

◆受益者の声：教育ローンの活用で女性グループのメンバーとも情報の共有ができるようになったり、子どもの教育への関心が高まりました。定期的な会合でも少額の貯蓄ができるようになり教材費を購入する資金に充てられるようになりました。

2019年度 海外協力事業 計画／報告 ／ 2020年度 計画案

2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>④女性の職業訓練支援 事業名称：収入向上のための研修、実習事業（新規事業1年目） 活動期間：2019年4月～2020年2月（3か年事業） 現地協力：REYDS TRUST (Rural Education Youth Development Service) 資金財源：アジア生協総合研究所＜99万7千円＞ 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区、マンマラスパティ村、S・バラス村、2か村、女性グループ受益者30名 活動背景：農業生産が減少し、特に女性の現金収入の手段が少なく困窮化を脱却するために新たな現金収入に結び付く技能研修を設ける。 活動計画：女性グループ組織運営、現金収入プログラム施策に向けての技能修得研修、成功例視察研修 期待成果：30名の女性グループメンバーが研修によって技能を修得し、具体的なプログラムを実践していく。 活動課題：女性グループメンバーの経験値が少ないので、フィールドワーカーによる親密な指導が不可欠</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告> 計画進捗：各種研修をとおして有機農産物生産、管理、マーケティングについての知識、技能を修得、地元の資源発掘調査 活動成果：有機農産物集荷、販売によって現金収入となった。地元で自生するモリンガの加工によって販売できる目途がついた。 活動課題：女性グループメンバーが活動に参加し技能を、経験を積んでいくことによって継続的な収入が可能になるので、フィールドワーカーの指導を仰いですすめていく。</p>	<p><2019年度計画からの変更点> 活動期間：2020年4月～2021年3月まで 資金財源：一般寄付 *継続的に助成金が得られなくなったので一般寄付で1年目事業のフォローアップをおこなっていく。 活動計画：収入向上技能研修に参加し、有機農業リソースセンターの協力を得て加工品生産、販売を定期的におこなう。 期待成果：30名の女性グループメンバーが習得し実践した成果を共有し継続的な活動ができるようになる。 活動課題：現金収入面での技術を維持、加工品生産には機器が必要な場合があり、資金をどのように調達するか課題がある。</p>

◆受益者の声：村では現金収入が得られる仕事もなく女性グループが助け合って地元にある資源を加工して収入に結び付けられるようになったのでとてもうれしく思っている。

2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>⑤計画なし</p>	<p><報告></p> <p>⑤トイレ建設ならびに保健衛生啓発活動支援<委託事業></p> <p>事業名：小学校トイレ建設ならびに啓発活動とトイレ使用状況調査事業 活動期間：2019年12月～2020年3月 現地協力：REYDS(Rural Education and Youth Development Service) 事業資金：932,000円 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区 マンマラスパティ村</p> <p>活動背景：マンマラスパティ村におけるトイレ設置、使用状況を調査した結果トイレの未使用の世帯が多く衛生環境が悪く、病気の原因となっている。また小学校ではトイレの老朽化のため使用ができなくなっていて児童は屋外で排泄する状態となっている。</p> <p>活動計画：小学校敷地内へのトイレ建設。トイレの使用状況調査、ならび小学生児童を対象にしたトイレ利用の啓発活動。</p> <p>活動成果：村においてはトイレを利用しない原因は給水事情とトイレ建設での構造上の欠陥が判明。同時に長年の慣習によるトイレ事情があるので気付きを促す啓発活動の必要性がわかった。</p> <p>活動課題：定期的な啓発活動とモニタリング、およびトイレの給水設備整備の資金の調達。</p>	<p><2019年度計画からの変更点></p> <p>単年度の事業のため継続予定なし。トイレ使用のその後については定期的なモニタリングを実施する。トイレ使用に向けての啓発活動をおこなっていくための計画策定、資金調達をすすめていく。</p>

2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2020 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>① スンバ島での有機農業推進（2014 年に開始） 事業名称：スンバ島農村部低所得者のための野菜作り技術指導 活動期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金財源：三菱商事株式会社からの寄付金の一部 35 万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県ワトゥンバカ村 活動目的：就業機会のない農村部住民が野菜の栽培・販売で収入を得る。 活動計画：研修受講希望者を募り 20 世帯 20 名を選ぶ 研修内容は有機肥料の作成（家畜のフンと周辺の植物を利用）、有機防虫剤の作成（周辺の植物を利用）、育苗（苗ポットはバナナの葉で作成）、苗の畑への作付、作物の交配、野菜の世話等。</p> <p>期待成果：これまで村の住人だけでナスやトマトの栽培を試みてきたが、知識がないために野菜が育たないという失敗を繰り返している。研修を受講し正しい知識を得て野菜作りを成功させる。</p> <p>活動課題：現地 NGO ラジオ MAX の有機農業指導も 6 ヶ村目になる。スタッフたちの指導力が試される時期となった。</p>	<p><計画からの変更点></p> <p><報告> 計画進捗：給水設備整備、有機農業技術指導ともに計画通りに進み終了した。研修終了後は、畑の面積を増やすために開墾作業をしている。</p> <p>活動成果：ワトゥンバカ村の 13 世帯 13 人が研修を受講し終了した。有機肥料作りや野菜作りの技術を身に着けた。研修前は川底に溜まる砂の販売でしか収入のなかった村人が地元の他ワインガップでも野菜を販売した。収穫できるようになった野菜は、白菜、キャベツ、ほうれん草、インゲン、唐辛子、チンゲン菜、キュウリ、玉ねぎなど。農業グループ全体で約 4 万円の売り上げがあり、自分たちも十分に野菜を食べることができた。また、現地 NGO ラジオ MAX のスタッフも 6 ヶ村目ということで研修を行うことに慣れ、ヘンリック氏以外のスタッフに現場を任せられた。</p> <p>活動課題：畑の面積を広げていることに伴い、新規に野菜作りに加わる住民を増やす。収穫量を増やし、現金収入を増やす。ラジオ MAX は引き続きサポートをする。</p>	<p>支援事業【インドネシア】</p> <p>新規事業である栄養改善事業に有機農業研修が含まれているため、2020 年度は有機農業研修を単体では行わない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◆受益者の声：</p> <p>70 代までの研修受講者がいる中で、30 代と一番年齢の若い私が書記に選ばれました。研修内容を記録したり、農業グループをまとめたり、今までしたことのない役割にやりがいを感じています。子育てをしながら、野菜を育て、書記のしごとをしているので、少々大変な時もありますが、リーダーがグループを良くまとめてくれて仲間たちが協力的なので、大変さは軽減されています。今後は販売活動に力を入れたり、畑を増やしたり、新しいメンバーを迎えたり、ますますやる事が多くなるので、楽しみです</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>苗を畑に植えたばかりのころ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自主的に水やりをする参加者</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>研修参加者と LIFE 事業担当者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>収穫の様子</p> </div> </div> </div>

2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2020 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>② スンバ島での植林推進（2015 年に開始） 事業名称：緑化推進のためのマングローブ植林事業 活動期間：2019 年 7 月～2020 年 6 月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金財源：緑の募金 54.5 万円、一般寄付 56.1 万円</p> <p>活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県カル村 活動目的：荒廃した自然環境の回復のため 活動計画：マングローブ苗木 3,500 本植林、植林イベントの開催、現地メディアへの広報活動、植林後の見回り、海岸のごみ拾い、木の大切さについて分かりやすいストーリーにした絵本の作成。</p> <p>期待成果：地元住民の環境保全への理解が定着する。</p> <p>活動課題：植林後のマングローブの管理。植林地のごみ拾い。盗伐の監視。</p>	<p><計画からの変更点></p> <p>資金財源：緑の募金 48.5 万円、一般寄付 56.1 万円 ※助成申請時はマングローブ植林の専門家の謝金を入れていたが、今年度よりラジオ MAX スタッフの知識と経験で植林するため専門家謝金 6 万円は緑の募金に請求しない予定。</p> <p><報告></p> <p>計画進捗：1500 本は教会の日曜学校の人たちと植林済み。絵本は完成し、印刷を行うだけとなっている。</p> <p>活動成果：1500 本は教会の日曜学校の人たちと植林済みだが、その後新型コロナウイルスの感染防止のため学校が休校となり住民たちは外出が自粛になり、集団を作ることが禁じられたことから、植林イベントは中止することとした。残った 2000 本の苗木は今後ラジオ MAX のスタッフが少しずつ植林をしていく。</p> <p>活動課題：2000 本もの苗木を 6 人程度のラジオ MAX のスタッフで植林していくため、スタッフの疲労が心配な状況。</p>	<p><2019 年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2020 年 7 月～2021 年 6 月</p> <p>資金財源：緑の募金 46.7 万円（申請中）、寄付 56.1 万円</p> <p>活動計画：マングローブ苗木 3,500 本植林、植林イベントの開催、現地メディアへの広報活動、植林後の見回り、海岸のごみ拾い。</p> <p>期待成果：現地 NGO が情報発信することにより地元住民だけでなく海岸を訪れる人たちに環境保全への理解が定着する。</p>

◆現地 NGO の声：

新型コロナウイルスに関する東スンバ島の決定により、小中高校が一斉休校になりました。これまで、教会の日曜学校の子もたちや町の高校生たちが植林を手伝って来ていましたが、今後植林に参加することが出来なくなりました。また政府は集団を作ること禁止しているので、地元の大人たちに集まってもらうこともできず、結局私たちラジオ MAX のスタッフだけで、少しずつ植林をしていくことになりました。

1 月の植林



今はスタッフだけで植林



2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>③ スンバ島農村部の子ども支援-1（2016年に開始） 事業名称：東スンバ島農村部の子どもの教育環境改善事業（3年目） 活動期間：2019年4月～2020年3月 現地協力：東スンバ島教育局 資金財源：日本労働組合総連合会 50万円、一般寄付 8.4万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ島、中部ジャワ</p> <p>活動目的：東スンバ島農村部の低所得者層家庭で通学用バッグを購入できない子どもたちにバッグを配付し、学力向上・通学意欲の継続を目指す。更にバッグ製作者である中部ジャワの貧困世帯の主婦たちの現金収入増加を目指す。</p> <p>活動計画：新しいデザインでバッグを2,000個作成する。ミシン掛けのできる人を新たに1名育成する。2年目にバッグを配付した小学生の使用状況などを調査する。</p> <p>期待成果：子どもたちへ通学用バッグ2,000個の支給。子どもたちの出席率の増加と学力向上。</p>	<p><計画からの変更点></p> <p>活動目的：(追加事項)活動が継続できるよう新人を育成しミシン掛けのメンバーを増やす。</p> <p><報告></p> <p>計画進捗：2,000個の通学バッグの作成、新人の育成は終了。大雨洪水の影響で製作者の自宅が水害に遭いバッグの製作が中断された。バッグ900個は発送したものの、その後、新型コロナウイルスの影響で製作者が暮らす村がロックダウンされ、村から出ることが出来ず残りのバッグ1100個が製作者の自宅に保管されている。</p> <p>活動成果：2年目に製作した2,000個の通学バッグをスンバ島の小学生に配付した。新人育成により新たに1名ミシン掛けができるようになり、1年間で通学バッグを作れるようになった。</p> <p>活動課題：製作者の村に高速道路が建設されることになり、立ち退きをせざるを得ない状況になった。政府から補償は出るものの、引っ越しや新居の建設に出費がかさむ。次年度も事業を継続したい。</p>	<p><2019年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2020年4月～2021年3月（5か年事業の4年目）</p> <p>資金財源：日本労働組合総連合会 60万円（申請中）、一般寄付 18.1万円</p> <p>活動計画：スンバ島にて新しいデザインを考案し中部ジャワでバッグを2,000個作成する。3年目にバッグを配付したスンバ島の小学校で使用状況などの聞き取り調査をする。</p> <p>期待成果：新たに2,000人の小学生が通学用バッグの配付を受ける。</p> <p>活動課題：2019年度の雨の量は尋常ではなかったが、2020年も大雨が降る可能性があることを考慮し、早め早めの行動をしたい。</p>

◆受益者の声

「今まではトウモロコシの種が入っていた袋に勉強道具を入れていたけど、これからはバッグに入れて通学できるよ。」
「毎年バッグの柄が違うらしい。他の柄も欲しいよ。」



製作の様子



梱包作業



出来上がったバッグ



バッグを受け取った子どもたち

2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2019 年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2020 年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>④ スンバ島農村部の子ども支援-2 事業名称：東スンバ島農村部の子どもたちの絵本寄付事業（2016 年開始） 活動期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティー財団（ラジオ MAX） 資金財源：きしゃぼん古本募金、株式会社三井住友銀行 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ島 活動目的： スンバ島には図書館がない。図書室がある学校もほとんどなく、あっても蔵書が少ない。スンバ島の子どもたちの将来の可能性を広げるためにラジオ MAX 事務所内に子ども図書館を作った。子どもたちは放課後ここへ来て自由に読書をする事ができる。 活動計画：日本在住のインドネシア人の方たちによる翻訳ボランティア、三井住友銀行さんや個人のボランティアさんたちによる翻訳の切り貼りボランティア。 期待成果：子どもたちが様々な本に接して知識を増やし、将来の可能性を広げる。また、読書することから集中力が養われ学校の授業も集中して受けられるようになり成績が伸びることが期待される。 活動課題：古本募金の宣伝を積極的に行い、寄付額を増やす。</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告> 計画進捗：翻訳ボランティアに 2 名が新規に参加した。新たに 18 種類の絵本の翻訳を依頼し、そのうち 16 冊の翻訳が終わっている。翻訳を切り貼りする絵本ボランティアは、個人の方や企業などが活動にご参加いただき通年活動を行った。 活動成果：これまでに完成した 66 冊は、全て現地に発送し、到着の連絡を受けている。翻訳ボランティアの一人が日本の文化をインドネシア語で紹介する本を出版していて、4 種類を LIFE に寄付してくれた。少々難しい内容なので、日本語クラスのあるワインガップ第三高校に寄付した。 活動課題：町に暮らす裕福な家庭の子どもでも本に接する機会のないことが分かった。ラジオ MAX の子ども図書館をもっと宣伝しても良いのではないか。</p>	<p><2019 年度計画からの変更点></p> <p>活動期間：2020 年 4 月～2021 年 3 月</p> <p>資金財源：きしゃぼん古本募金、株式会社三井住友銀行（予定）</p> <p>活動計画：翻訳ボランティアが増えているので、翻訳する絵本の種類を増やす。</p> <p>期待成果：子どもたちが様々な本に接し、知識を増やす。本を読むことにより集中力を高める。その結果、学校での成績が伸びる。将来の可能性が広がる。</p> <p>活動課題：毎年三井住友銀行さんがボランティアで絵本に翻訳の切り貼りをしてくださっているが、今年は新型コロナウイルスの影響で LIFE がイベント活動を自粛しているため、絵本ボランティアも開催できるか不明。今のところ三井住友銀行さんからは 6 月 18 日（木）18 時半～20 時で打診があったが、保留としている。</p>

絵本ボランティアの様子(1月26日)



2019 年度に届いた絵本を読むスンバ島の子どもたち



2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2020年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>⑤ スンバ島栄養改善支援 - 1 事業名称：インドネシアの子どもたちに、モリンガで栄養改善を 掲載期間：2019年4月19日～2019年5月31日 活動期間：2019年6月1日～2019年11月30日 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金調達：クラウドファンディングサイト Readyfor 資金財源：Readyfor で達成した目標金額 100万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県農村部 活動目的：モリンガというたんぱく質、ビタミン、カルシウム、鉄分など栄養豊富な植物を使った農村部貧困家庭のための栄養改善。 活動計画：現地 NGO によるレシピ開発→村の奥さん向けに料理教室開催→料理をマスターした家庭は日常的にモリンガを食べて栄養を改善する→料理をたくさん作れるようになったら販売して現金収入を得る。</p> <p>【費用使途】 レシピ（料理、菓子等）開発費 160,000円 サプリメント開発費 60,000円 開発に必要な設備や機材の購入費 120,000円 農村部女性へのレシピ指導料 150,000円 専門家（現地 NGO 職員）の渡航費、宿泊費、食費 50,000円 研修開催費用（台所借用、食材購入、研修会の広報等）40,000円 スンバ島でのバイク賃借料、およびガソリン代 40,000円 広報活動費（教材作成、活動 RP 等）40,000円 当会管理費（渡航費、人件費、通信費等）136,400円 リターン作成費 20,000円 READYFOR 手数料 183,600円 <u>必要金額合計 100万円</u> 期待成果：子ども、家族の栄養改善。料理や菓子の販売からの現金収入。 活動課題：活動期間の6ヶ月間でメニューを開発し、料理教室を開催し、参加者に料理を覚えてもらう。</p>	<p><計画からの変更点> なし</p> <p><報告> 計画進捗：6月12日、現地へ事業資金を送金。現地では8月までに料理とサプリメントを開発。その後数回にわたり村人たちにモリンガを使った献立の料理教室を開催。郡の保健師も参加し、活気のある会となった。事業終了後には、リターン購入者の皆さまへリターンを送付した。2020年3月には、献立命名権を購入された二幸建設の鈴木社長他、モリンガに関心のある会員2名が事業地を訪れる予定だったが、新型コロナウイルスの影響で渡航を中止した。</p> <p>活動成果：村人たちがスンバ島に自然に生息しているモリンガが栄養豊富であり、調理の仕方によっておいしく食べられるということを知った。自然にあるものを採取するといずれはなくなってしまうので、植林することも理解した。植林の資金はひまわり募金で集め、16万400円（苗木2,000本分）を現地へ送金済み。</p> <p>活動課題：粉末にしたモリンガをパック詰めにし、町の住人に販売して事業継続の資金にする計画をしていたが、食品の販売許可を得るための資金がなく滞っている。日本人は当面現地へは渡航できないが、新型コロナが収束したら鈴木社長をお連れし、計画していた村人との料理作りや食事での交流、献立の命名を実現したい。</p>	<p>今回の支援の成果物であるモリンガを使った献立や料理教室開催の実績をもとに、今後は現地 NGO が資金調達をして、事業を進めていく。活動報告をすべきことがあった際は、Readyfor の新着情報に掲載し、ご支援者様に状況を知って頂く。</p> <p>◆受益者の声 「料理教室に参加しなかったら、モリンガをおいしく食べるなんて想像できなかった。料理教室を開催してくれてありがとうございます。」料理教室参加者の村人 「モリンガの木をなくさないために植林をしたい。」料理教室参加者の村人 「おいしい。」子どもたち 「この村には何人も栄養不足の子どもたちが見受けられます。これを機会に栄養不足が改善することを願っています。」郡の保健師</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="2041 1050 2338 1081"> <p>モリンガの葉を粉にする</p>  </div> <div data-bbox="2457 1050 2665 1081"> <p>クルブック作り</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="2041 1381 2427 1413"> <p>貧困層に配付するサプリメント</p>  </div> <div data-bbox="2457 1381 2843 1413"> <p>販売予定の粉末のパック</p>  </div> </div>

2019年度 海外協力事業 計画	2019年度 海外協力事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>計画なし</p>	<p>実績なし</p>	<p>⑥ スンバ島栄養改善支援 - 2 事業名称：スンバ島農村部に暮らす村人と子どもたちのための栄養不足改善事業 活動期間：2020年4月～2021年3月（4月より3年間事業の1年目） 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオMAX） 資金財源：味の素ファンデーション 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県ライパンダック村 活動目的：東スンバ県農村部の貧困家庭の栄養不足を改善する。ライパンダック村をモデルの事業地とし、様々な栄養素を摂取できるよう野菜作り指導の他、大豆作り、果樹の植林、いけすでの魚の養殖を行う。また、大豆や魚は加工品作りも指導する。村で生産されたものは販売して、村人の収入源とし、事業継続の資金にもする。</p> <p>活動計画：村で唯一の公共施設であるライパンダック小学校を拠点に事業を行う。学校の先生方が全面的に協力をしてくださることになっている。また、LIFEの支援者である栄養を専門とする小児科医と管理栄養士のお二人がプロジェクトに参加する。事業で行うことは、有機野菜および大豆作り、果樹の植林、有機肥料の作成、いけすの建設、魚の餌の作成、バイオガスを使った調理場の建設、加工食品作り、小学生および未就学児の身体測定など。小学生とその保護者、近隣住民が事業に参加する。</p> <p>期待成果：村人とその子どもたちの栄養改善だけでなく、この事業がスンバ島農村部が抱える栄養不足を改善するためのモデルとなり、各村への指標となる。</p> <p>※上記は3年間の見通し計画</p>
<p>ライパンダック小学校の先生と児童</p>    <p>ライパンダック村の子どもの食事の様子</p>    		

2019 年度 海外協力事業 計画	2019 年度 海外協力事業 報告	2020 年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：米山</p>	<p style="text-align: center;">東スンバ県 4 か村における農村開発支援事業調査</p> <p>調査期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月 現地協力：MARADA 財団 資金財源：一般寄付 139,500 円 活動地域：東スンバ県カハハ郡ムバタフ村、プライラギナ村 レワ郡カンバタウン村、マタワイパワリ村 活動計画：各村の住民に参集してもらい、生活環境、農業事情、食糧事情、給水状況について意見を招集 活動成果：2018 年度より現地 NGO＝MARADA が調査に入りデータを取集 厳しい状況を報告、支援内容について提案書としてまとめられてきた。 活動課題：支援内容に関して具体的な資料が十分なされていないところがあり、今後予算計画も含めて精査していくことが必要である。</p>	<p style="text-align: center;">東スンバ県 4 か村における農村開発支援事業形成調査</p> <p>調査期間：2020 年 4 月～2021 年 3 月 現地協力：同左 資金財源：一般寄付 100,000 円 助成金の申請予定金額：約 2000 万円 活動地域：同左 活動計画：①給水施設整備関連調査 ②農業復興基盤整備関連調査 ⑦ 農業グループ組織化関連調査 ④環境保全、土壌改良関連調査</p> <p>5 月末をめどに新事業概要を決めて 7 月には外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業申請書として提出予定。 事業期間は 3 年間を予定、2021 年 4 月開始。予算規模は各年約 2000 万円</p>

2019 年度 海外協力事業 計画	2019 年度 海外協力事業 報告	2020 年度 海外協力事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：</p> <p>計画なし</p>	<p>実績なし</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：米山、山田、阿部、小田嶋</p> <p>⑧ バリ島給水事業 事業名称：水道組合設立及び住民主体の持続的な水道事業運営に向けた基盤構築事業（新規事業、3年間事業の1年目） 事業期間：2020年4月～2021年3月 事業地域：バリ州ブレンゲ県プダワ村6集落 現地協力：BUMDES（公営の経済管轄機関、2015年設立） 資金財源：ゆうちょ財団100万円、日本国際協力財団199万円 活動目的：生活用水が使用できていない1,152世帯3,629人を対象にして老朽化して水供給が困難な状況を改善していき健康で安全な生活が出来るようにする。 活動計画：給水状況を調査し、現状把握と村人の意見を聞いてどのような給水施設が望ましいかを理解していく。水道組合を組織し、水管理維持のために人材育成研修を実施。貯水池の新設・修繕をおこなう。 期待成果：送水管が修繕され700人への水のアクセスが24時間可能となる。村人が水管理の必要性を認識し維持管理に参加する。 活動課題：組合活動に村人が理解をもち、研修参加や施設工事などへの協力が得られるか。</p>

2019年度 海外交流事業 計画	2019年度 海外交流事業 報告	2020年度 海外協力事業 計画案
<p>交流事業【インド】 担当：2019年度 米山、望月</p> <p>交流事業～インドスタディツアー 事業名称：「緑と大地から学ぶ南インド10日間ツアー」 実施期間：2019年8月22日～31日まで（募集人数12名） 現地協力：REYDS (Rural Education Youth and Development Society) 実施地域：タミルナドゥ州チェンナイ市内、エスバラス村、マンマラスパティ村、マドライ市内 実施背景：現在すすめているインドでの有機農業事業を視察するとともに食と農、生命維持のための種の保存、伝統種を守る活動を学ぶ機会とする。また、有機農産物のマーケティングの現場を訪れ現地の人たちとの交流をとおしてアイデア、意見の共有化を図る。 計画進捗：参加者の5月7日から募集を開始。参加希望者は事前の研修会でどのような学びを期待するか共有する機会をもつ。 期待成果：経済のグローバル化の影響でインド農村部でなにが起こっているかを観察し、日本との関係、どのようなことを考え、取り組んだらよいかの示唆をえていく。</p> <p>■海外交流事業【インドネシア】 担当：古賀／現地コーディネーター：古賀</p> <p>・ツアー計画なし</p>	<p>交流事業【インド】 担当：2019年度 米山、望月</p> <p>交流事業は定員に達せず実施せず</p> <p>2019年度ツアー広報チラシ →</p>  <p>課題：農村開発と持続可能な社会づくりの側面から体験を重視した学びの場を提供することを狙った企画であったが、訴求効果が得られなかった。 また、テーマとプログラムのミスマッチも十分参加者を得られない要因であった。</p> <p>・ツアー実績なし ・会員視察は実施予定だったが中止とした（詳細はP13）</p>	<p>交流事業【インド】 担当：2020年度 米山、望月</p> <p>交流事業～インドスタディツアー</p> <p>・実施計画なし</p> <p>・計画なし</p>

2019年度 国際理解促進事業 計画	2019年度 国際理解促進事業 報告	2020年度 国際理解促進事業 計画面
<p>【講座・イベント】</p> <p>① 講義・講演の依頼 予定なし</p> <p>② 学習会・講座・イベントの企画・開催 ・NGO訪問学習の受け入れ ・南インドの有機農のNOW! (5/25開催予定) ・体験試食ボランティア企画(8月開催予定)</p> <p>③ スタディーツアー研究会との協働 他NGOとの大学でのスタディーツアー説明会の事務代行 青山学院大学にてツアー説明会を5月29日に実施予定</p> <p>④ 他団体主催のイベント参加 ・第90回メーデー中央大会(4月) 主催：日本労働組合総連合会(連合) 内容：活動紹介、民族衣装の体験、物品飲食販売の予定</p> <p>・グローバルフェスタ JAPAN (9月末) 主催：外務省・国際協力機構・国際協力NGOセンター(9月下旬予定) 内容：活動紹介・物品飲食販売・民族衣装の体験など</p> <p>・団体/企業等でのチャリティーバザーと活動紹介 主催：学校、企業等 内容：NPO法人ラ・メール作製クッキー販売、ジャワ島ママグループ作成の小物販売、現地小物の販売など。</p> <p>・ふれあい満点市場(2月) 主催：東京ボランティアセンター 内容：活動紹介・物品販売</p> <p>・ちよだコミュニティラボライブ!(2月) 主催：千代田区 内容：区内交流に興味がある方へ向けた活動紹介</p>	<p>① 同左 講演依頼なし</p> <p>② 同左 ・NGO訪問学習の受け入れなし(ボランティア活動の受け入れはあり) ・総会第2部インドネシア事業報告会(5/25開催)参加：約20人 ・南インドの有機農のNOW! (5/25開催)参加：30名 ・体験試食ボランティア会(8/24開催)参加：約10名</p> <p>③ 同左 ・スタディーツアー説明会の事務代行は他団体に依頼 ・協同実績なし</p> <p>④ 同左 ・同左(4/27開催) 出展料：無料(飲食販売する場合のみ5500円) 内容：初参加。活動紹介、クルブック(えびせん)販売、民族衣装体験、小物販売など。役員・ボランティア約15名が活動サポート。</p> <p>・同左(9/28~9/29開催) 出展料：一般テント1張・飲食1/2テント1張 各17,820円 内容：活動紹介、クルブック(えびせん)販売、民族衣装とゴンの体験会を主催イベントの一環として1時間企画を実施した。役員・ボランティア延べ約30人が活動サポート。</p> <p>・同左 出展料：無料 内容：事務局近くの私立学園の生徒有志が販売。クッキー等の販売。</p> <p>・同左 出展料：無料 内容：活動紹介や物品販売。7名のボランティアがイベント補佐。</p> <p>・同左 ※新型コロナウイルスの影響で中止</p>	<p>①同左 予定なし</p> <p>② 同左 新型コロナウイルスの終息の目途(少なくとも東京都が自粛呼びかけを解除するまで)が立つまで受け入れも主催もしない方針。 ※ただしオンラインによるイベント開催は検討したい</p> <p>③ 同左 2020年度以降は共同予定なし。</p> <p>④ 他団体主催のイベント参加 ・同左 ※新型コロナウイルスの影響で中止 ※飲食出展料5,500円は3月に振り込んだが3月返金済み</p> <p>※2019年度参加イベントは2020年度も踏襲予定であるが、新型コロナウイルスの影響で参加できる見通し不明</p> <p>・障害者施設の納涼祭 NEW! ボランティア活動で協力している施設より、納涼祭への出店を打診されている。7月の予定。施設としても外部の方を招いての納涼祭は初とのことで、出展料や内容等は不明。小物販売と飲食店を予定している。 新型コロナウイルスの影響で中止の可能性が大きい。</p> <p>※アースディ東京は出展料が高額(展示だけで32,000円、飲食は別途必要)、出品も人工化学添加物、遺伝子組み換え食品の不使用、フェアトレード製品の推奨を掲げているためハードルが高く不参加が続いている。</p> <p>※臨時的な通販販売は可能か東京都、税務署に確認してみる (継続的な販売行為は収益事業となり決算報告が煩雑、課税処理等が必要となる)</p>

2019年度 組織管理部門 計画・報告 / 2020年度 計画案

2019年度 組織管理部門 計画	2019年度 組織管理部門 報告	2020年度 計画案
<p>【会員・ボランティア】</p> <p>① 会員数目標 (会員 42名 賛助会員 70名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金キャンペーンに合わせての会員加入 ・会員交流に参加する非会員、寄付協力者から会員加入 ・旧ツアー参加者の会員継続のお願い ・退会後も募金案内等を通じた再入会のハードル下げ <p>② 交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LIFE関係者(旧会員も含む)との交流会(2~3カ月ペースで実施) ・会員主催の花見、田植え、稲刈り、花火鑑賞会の実施 ・参加者へ募金、入会の案内 <p>③ ボランティアおよびインターン活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のボランティア活動に代わる活動の模索 ・国内インターン継続1名予定 <p>【募金寄付金】</p> <p>① ひまわり募金(募集期間:6月~8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加90組 ・目標金額 70万円 ・クレジットカード寄付が可能なギブワンの活用 <p>③ クリスマス年末募金(募集期間:11月~3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加180組 ・目標金額 200万円 ・ギブワン寄付者の目に留まりやすいキャンペーン名を考案 	<p>① 同左</p> <p>正会員(36→40名 2→1団体 計41名) 賛助会員57→51名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助から正会員2名、団体から個人正会員1名、賛助新規2名、会員復帰等あったが、賛助会員は減少気味。 <p>② 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LIFE関係者との交流会(2~3カ月ペースで実施) ・会員主催の花見、田植え、稲刈り、花火鑑賞会の実施 <p>※花見は新型コロナの影響で中止</p> <p>③ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付切手の価値を高める「切手仕分隊」継続参加中 ・切手をスムーズに郵便局で処理してもらう資金化ボランティア ・事務局での清掃やハガキの仕分け、封入作業ボランティア ・切手や作業量が応募者に対して足りない問題は継続 ・国内インターン1名は継続の意思 <p>※2月下旬~3月に予定していた事務局ボランティアはすべて中止</p> <p>① 同左(募集期間:7月~9月末)</p> <p>【モリングで栄養改善】参加70組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金額309,127円(目標金額まで~約40万円) ・ひまわり募金の7割をインドネシア事業、3割を管理費として広報 <p>② 同左(同左募集期間:12月~3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【インド・インドネシアの村の人に、愛の手を!】参加147組 ・募金額146万6546円(目標金額まで~約54万円)※3月入金分 ・募金の7割を海外支援事業、3割を管理費として広報 <p>③ Readyfor(募集期間4/19~5/31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【インドネシアの子どもたちに、モリングで栄養改善を】参加64組 ・募金額104万1,000円(目標金額 約100%) 	<p>① 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度計画を踏襲 ・今年度は財政悪化で継続数が下がる可能性あり <p>② 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花火鑑賞を毎年していた江戸川花火大会は10月24日に延期 ・新型コロナの影響で当面の間は中止 <p>③ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して切手仕分ボランティアに参加していた企業も新型コロナの影響で中止中。事務局も送付できないため当面中止。 ・事務局で主催するボランティア活動は当面中止。郵送を伴わないボランティア活動があれば実施したい。 ・郵便局などの配送業者でも新型コロナの影響で配送の遅れやセンターの閉鎖なども起きているため、運送業者の負担軽減のためにもコロナが終息するまで物品寄付は自粛したい。 <p>① 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加70組 ・目標金額30万円 ・新型コロナの影響もあるため今年は既存寄付者へ送付考え <p>② 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加130組 ・目標金額130万円 ・寄付金額の減少が考えられる <p>③ 同左</p> <p>2019年度は単発的に実施のため今年度は実施しない考えだったが、今後の状況次第では検討しないといけないかもしれない。</p> <p>※寄付サイト giveone がリニューアルするため使いやすくなる可能性あり</p>

2019年度 組織管理部門 計画・報告 / 2020年度 計画案

2019年度 組織管理部門 計画	2019年度 組織管理部門 報告	2020年度 計画案
<p>【物品寄付】(2004年より開始)</p> <p>①物品寄付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きしゃぼん古本募金 20名以上の参加目標 ・使用済切手 約100kgの収集目標 ・レア切手 は引き続き換金予定 ・未使用切手も収集予定 ・切手仕分隊の継続参加 ・郵便ハガキ 3,000枚 目標 ・その他金券、文房具等 適宜受付 <p>②物品寄付の協力 企業・団体40社、個人90名 目標</p> <p>③企業団体との連携協力 切手の資金化ボランティア企業・団体 5社 目標</p> <p>④自治体のボランティアセンターとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ボランティアセンター主催「夏のボランティア体験会」の登録 ・ボランティア広報は東京・ちよだボランティア両センターで行う。 <p>※場所の確保とボランティア内容が乏しいため、需要と供給に気をつけ募集を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ボランティアクラブ(ボランティア活動が寄付になる)を活用予定。 	<p>①同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きしゃぼん古本募金の利用37→24組が参加 ・使用済切手 約50kg分を換金済、未換金の在庫は約30kg ・海外切手などの付加価値のある切手 約1kgを換金済 ・未使用切手、ハガキ、金券等の金額は決算を参照 ・切手仕分ボランティア活動は今年も企業が多数参加 ・ヤフオク!を活用した高額品の寄付を開始、落札0 <p>②同左 企業・団体35、個人85名 計120 (昨年は企業・団体36、個人86名 計122)</p> <p>③同左 切手の資金化ボランティア 企業団体 8社が参加</p> <p>④同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ボランティアセンター主催「夏のボランティア体験会」に23人登録 ・定期ボランティア(個人)では約30人が単発参加 ・企業ボランティアクラブの制度で寄付約10万円が入金予定。 	<p>①同左 目標は予算案参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度を踏襲予定 ・ヤフオク!を活用したオークション寄付の参加者を増やしたい ・アマゾンの「欲しいものリスト」を活用した寄付の開始 <p>②同左 物品寄付の協力 企業・団体20社、個人50名 目標 (自粛やリモート等で収集できないため低い数字)</p> <p>③同左 切手の資金化ボランティア企業・団体 2社 目標 (寄付品が減ると資金化も困難なため)</p> <p>④同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で東京ボランティアセンター主催「夏のボランティア体験会」は中止決定 ・定期ボランティア活動も自粛で出来ない可能性あり ・企業ボランティアクラブ制度も利用できない可能性大



4月：メーカー出展



8月：クルプックとチャイの試食会



8月：民族衣装の体験会



9月：グローバルフェスタ出展



9月：グローバルフェスタ出展
(ゴンの体験会を実施)



2月：満点市場へ出展

2019年度 組織管理部門 計画	2019年度 組織管理部門 報告	2020年度 計画案
<p>【事務局】</p> <p>① 年次総会の開催 2020年5月25日(土)に開催予定</p> <p>② 各種委員会 ・2~3カ月に1回、定期的な開催</p> <p>③ 組織管理部門のための職員の研修参加 ・ツアー安全管理講習 ・ファンドレイジング講習 ・職員スキルアップ講座等の出席</p> <p>④ 通信機器・情報・受信機器環境整備 ・会員管理ソフトの移行作業の開始 ・残り2台のPCをWindows10更新か購入を検討 ※テックスーパークリユースボランティアの手を借りる予定 ※移行作業に膨大な作業時間がかかる見通し</p> <p>【広報】</p> <p>・会報「みらいの樹」 計4回発行予定 ・メルマガの月1回配信、ブログ更新、facebookの活用 ・認定NPO法人サービスグラントのプロボノと共同でLIFE公式WEBの改善 ・郵便代の値上げに伴いみらいの樹の他に年次報告書の作成を検討 ・グーグル無料広告の積極利用</p> <p>【その他】</p> <p>・認定NPO法人の取得について 指摘された会計不備は2017年度で修正済み。問題のない年度で再申請の考え。(2018、2019年度の会計で2020年度に申請予定が最短) 指摘された書類不備は修正する必要がある。</p>	<p>① 同左 2019年5月25日(土)通常総会の開催 2019年10月19日(土)臨時総会の開催 定款の大幅な改正を実施。総会で可決された定款変更案は最終的に10月東京都へ提出し1月に承認、法務局への登記は2月に完了した。</p> <p>② 同左 ・理事会2回、運営委員会3回開催</p> <p>③ 同左 ・文章作成スキルと助成金活用講座2名受講</p> <p>④ 同左 ・見積もりが終わり、正式契約は2020年4月の予定 ・事務局すべてのPCがwindows10へ無料で移行完了 ・メール管理をGoogleのGsuite(NPO無償提供)導入 ・2月中旬より試験的にリモートワーク実施のためツール導入</p> <p>【広報】</p> <p>・会報みらいの樹79~81号 計3回発行 ・メルマガ月1回配信、Facebookやブログ更新は定期的実施 ・改善案をいくつか頂き、そのための第一歩としてサーバーとドメイン管理会社の変更を実施した。 ・7月に年次報告書の作成 ・活動紹介リーフレットの刷新 ・Google広告の基本的な使用方法をプロボノからレクチャー</p> <p>・同左 指摘された不備を適宜、修正。2020年度に再申請の予定。</p>	<p>① 同左 2020年5月23日(土)に開催予定 ※評決書、委任状、インターネット会議を用いて開催予定</p> <p>② 同左 ・2~3カ月に1回、定期的な開催(新型コロナ影響下はネット会議利用)</p> <p>③ 同左 ・ツアー安全管理講習 ・ファンドレイジング講習 ・職員スキルアップ講座等の出席</p> <p>④ 同左 ・会員管理ツールの納入は夏頃の予定(データ移行も含む) ・在宅ワークに必要な通信環境の整備のため東京都の助成金を活用予定</p> <p>【広報】</p> <p>・2019年度を踏襲予定 ・年次報告書の作成の定期化 ※新型コロナの影響で郵送が困難になる可能性もある</p> <p>・同左 再申請の予定だったが、新型コロナの影響で審査実施が可能なのか不明。申請で必須の事前相談会は中止となっている。(4/8時点)</p> <p>・職員1名の正規雇用</p>